

核燃サイクル中止、むつ中間貯蔵稼働阻止への取り組みを確認しました

11月11日、『反核燃・秋の共同行動 in むつ行動』が開催されました

例年、この時期に開催している「反核燃・秋の共同行動 in むつ行動」が11日、下北文化会館 2F 集会室に 40



開会あいさつする
中島寿樹現地実行委員長

名の参加者が結集して開催されました。

集会は中島寿樹現地実行委員会代表のあいさつに始まり、事務局の栗橋より

「むつ中間貯蔵施設を巡る現下の情勢と今後の対応について」、核燃サイクル阻止 1 万人原告団山田清彦事務局長より「六ヶ所再処理工場の現状と原子力規制委

員会の審査状況」とそれぞれ本集会の基調提起を行いました。

その後、折から自らの研究目的で当地を訪問していた前橋国際大学西館崇准教授より「下北の住民運動の持つ意味」と題した小講演がありました。

准教授は長年にわたり当地を訪問し、国家権力に振り回され続ける下北の住民運動や自治体の姿勢について研究されており、講演でも私たちも知り得なかった過去の



講演する西館崇准教授

運動のエピソードなどが語られました。そして、大きな流れの中でも微力ながら立ち向かい、住民が一方的なプロパガンダに巻き込まれない役割を果たしてきたことなどが披露され、今後こうした活動を継続することが必



ずや地域の将来に意味があることを強調されました。

講演後はビデオ学習会で原発計画を断念させた住民運動を取材したドキュメンタリー映画などを鑑賞、集会宣言を採択しておよそ 2 時間の集会を終了しました。

会場には反原発を標榜する農家の方々のリンゴや長芋、各種野菜が廉価で販売され殆んどが完売しました。

集会には杉浦弘樹市議をはじめ工藤祥子、佐藤武市議も参加しました。また六ヶ所村の「花とハーブの里」菊川恵子さん、「青森県を核のゴミから守る県民の会」のメンバーも三沢や八戸から駆けつけていただきました。

なお講演いただいた西館崇さんの関連記事を 3 ページ目に掲載しています。併せてご覧ください。

翌 12 日には青森行動が行われました

翌日 12 日には同様の集会が青森市で開催されました。折からの悪天候でしたが、午前中に青森市内をデモ行進し、午後から「ねぶたの家・ワラッセ」に北海道からの仲間も迎えて開催されました。



集会は反核燃農業者の荒木茂信さんの開会あいさつで始まり、むつ集会同様、核燃サイクル阻止 1 万人原告団山田清彦事務局長が「青森からの報告」と題し講演、その後、共同行動実行委員会名で青森県知事や六ヶ所村、日本原燃、使用済燃料再処理機構へ提出する公開質問状などの内容を全体で確認し、翌 13 日以降、そ

れぞれ提出することとしました。

その後、各地からの報告として、下北から栗橋が、六ヶ所から菊川慶子さん、函館から「大間原発訴訟の会」



の竹田とし子さんが現地報告と決意表明を行い、集会宣言を採択。

最後に古村一雄核燃料廃棄物搬入阻止実行委

員会代表が「来年は核燃サイクル受入れ決定 40 年の節目でもあり、より多くの団体との合同開催で数多くの参加者を迎えて盛大にこの行動を取り組もう」と閉会のあいさつがあり、終了しました。

「大型弾薬庫に反対する市民の会」の申し入れに対してむつ市より回答がありました 住民説明会の開催には前向きでしたが、その他は具体的な内容は見えませんでした

去る8月25日、同会がむつ市へ提出した申し入れ書に11月14日、面談の上、文書回答がありました。

住民説明会の開催については、「そうした要望があればむつ市として防衛省に求める」と前向きな回答がありましたが、それ以外では防衛業務は国の専管事項として何一つ納得できるものではありませんでした。



会談に臨む市民の会メンバーと対応する角本企画政策部長



回答を受け取る目時代表

《むつ市よりの回答全文》（質問文は簡潔に省略しています）

【質問①】当市の将来像を大きく左右する大型弾薬庫の新設について貴職はどのように考えるのか。

【回答①】国民の命と平和な暮らし、そして、わが国の領土・領海・領空を守るため、運用基盤の強化を図るものであり、弾薬を安全に保管するため、また、部隊運用を継続的に実施するために必要な整備と理解しております。

【質問②】市として地域住民に対して直接説明する予定、あるいは防衛省へ説明を求める予定はないのか。

【回答②】国防に関わる整備についての説明となりますので、地域に居住している方が不安に思い、説明会の実施等を求められるのであれば、市としては防衛省に対して説明会の実施を要望するとともに、会場の手配や広報等に協力をしていきたいと考えております。

【質問③】大型弾薬庫新設による市民生活への影響をどのように考えているのか。

【回答③】火薬庫の設置・運用にあたっては火薬類取締法等の関係法令に基づいた保安距離が基地内で十分確保されているとともに、今まで長年にわたり運用されてきた既存の火薬庫についても弾薬等の適切な管理が行われてきたことから、市民生活への影響は特段生じないものと考えております。

【質問④】現時点で工事の進捗状況をどのように捉えているのか。

【回答④】具体的な進捗状況は把握しておりませんが、東北防衛局のホームページに本件に関わる工事等の公告や入札結果も掲載されておりますので、予定どおり工事等は進んでいるものと認識しております。

【質問⑤】大型弾薬庫が完成した時点で弾道ミサイルなどの収納あるいは発射装置までの搬出経路などについてどのような形態でおこなわれるのか把握されているのか。

【回答⑤】把握しておりません。なお、去る2月17日の防衛大臣記者会見において、当時の浜田防衛大臣は個々の火薬庫に保管する弾薬の種類については、その詳細を示すことにより、自衛隊の能力が明らかになるおそれがあるため、具体的にお示しすることは困難であることを御理解いただきたい」と発言されております。

【質問⑥】大湊地域という特性上、将来的に弾道ミサイル搭載可能のイージス艦などの配備を懸念する報道なども目にするが、こうした計画などについて聞き及んでいるが、今回の建設で補給所区域及び周辺地域に設定されている区域に変更が生じると考えているのか。

【回答⑥】現在、整備中の2棟も、弾薬整備補給所内に建設されるため、対象施設周辺地域の区域に変更はないと認識しております。

【質問⑦】建設予定地が現在の弾薬整備補給所とされていると聞き及んでいるが、今回の建設で補給所区域及び周辺地域に変更が生じると考えているのか。

【回答⑦】現在、整備中の2棟も、弾薬整備補給所内に建設されるため、対象施設周辺地域の区域に変更はないと認識しております。

【質問⑧】周辺民家などの立ち退き要請や自主的な立ち退き事象が生じているような事実はあるのかどうか。

【回答⑧】そのような事実は把握しておりません。

【質問⑨】本事業によりむつ市の様々な行政事業計画への変更などは発生するのか。また、地域の環境や動植物の生態系への影響への懸念などについてはどう考えているのか。

【回答⑨】当市の様々な行政事業計画への変更は発生しないものと考えております。これまでの火薬庫整備において、環境等への影響はなかったものと認識しており、本事業においても関係法令等に基づき、適切に整備されるものと考えております。

※ 面談には市民の会から目時共同代表、村上事務局長他計8名が列席、市当局は角本企画政策部長以下3名が対応しました。その対応でむつ市側は表面的には丁寧な受け答えでしたが、すべて防衛業務は国の専管事項であり立ち入ることができないとの立場に終始しました。市当局としても弾薬庫にどのような機材が、

どのような形で、どのような経路で搬入搬出が行われるのか、あるいはどの時点で搬入されるのかも一切把握できないとのことでした。このようなことで果たして市民の『命と暮らしを守る』ことができるのか大いに疑問です。

近日中に、あらためて本回答を分析し、こうした点を追及していくことを会談終了後、参加者で確認しました。

むつ市議会、新議長や所属委員会などが決まりました～議長に富岡幸夫氏を選出

むつ市議会は改選後の新しい会派構成が 10 月 24 日に確定しました。新会派は与党会派で一部入れ替えや名称変更がありました。

また 10 月 30 日には初めての議会が開かれ、正副議長の選出や医療センター議会と広域事務組合議会の議員や各委員会の所属を確定しました。

杉浦弘樹議員は下北医療センター議会議員及び産業建設委員、広報公聴委員として活動することになりました。

- 【一部事務組合下北医療センター議員】
- 杉浦弘樹、住吉年広、富岡直哉、東健而、中村正志、岡崎健吾、佐賀英生、浅利竹二郎
- 【下北地域広域行政事務組會議員】
- 高橋征志、佐藤武、櫻田秀夫、白井二郎、村中浩明、野中員健、佐藤広政、井田茂樹、佐々木隆徳、佐々木肇

富岡氏新議長に

むつ市議会 副議長は岡崎氏

むつ市議会は30日、改選後初となる臨時会を開き、議長に富岡幸夫氏(72)＝自民クラブ、7期、副議長に岡崎健吾氏(70)＝陸奥未来、5期＝を選出した。

全議員22人の投票で、議長選は富岡氏11票、佐賀英生氏(市誠クラブ)6票、工藤祥子氏と浜田栄子氏(ともに無会派)がいずれも2票、無効1票だった。

副議長選は岡崎氏13票、佐藤武氏(無会派)3票、無効6票だった。

臨時会では、2023年度一般会計補正予算案を上程し、原案通り可決した。同補正予算は3億237万円追加し、総額43億2835万円となった。

(山内はるみ)



岡崎 健吾氏 富岡 幸夫氏

【各議員の所属委員会及び所属会派】

委員会名	委員名 (◎委員長、○副委員長)	会派名	議員名 (◎会派代表者)
総務教育	◎野中貴健、○櫻田秀夫、高橋征志、佐藤武、濱田栄子、佐藤広政、富岡幸夫、佐々木隆徳	市誠クラブ	◎佐賀英生、東健而、野中貴健、大瀧次男、佐藤広政
		自民クラブ	◎中村正志、佐々木肇、浅利竹二郎、井田茂樹、富岡幸夫
産業建設	◎富岡直哉、○井田茂樹、杉浦弘樹、白井二郎、佐日英生、大瀧次男、佐々木肇	陸奥未来	◎佐々木隆徳、岡崎健吾、村中浩明、富岡直哉
民生福祉	◎村中浩明、○工藤祥子、住吉年広、東健而、中村正志、岡崎健吾、浅利竹二郎	公明・自由	◎住吉年広、櫻田秀夫、白井二郎
議会運営	◎中村正志、○井田茂樹、住吉年広、富岡直哉、村中浩明、野中貴健、佐賀英生	会派に属しない議員	高橋征志、杉浦弘樹、濱田栄子、佐藤武、工藤祥子
広報広聴	◎富岡直哉、○杉浦弘樹、櫻田秀夫、村中浩明、野中貴健、佐藤広政、中村正志、井田茂樹		

共愛学園前橋国際大学西館崇准教授

むつ市の住民運動の検証し続けた研究が「高木仁三郎市民科学基金」の助成対象となりました

使用済核燃料の中間貯蔵施設を巡るむつ市政 20 年の展開と住民運動についての研究

本研究は、使用済核燃料の中間貯蔵施設を巡る青森県むつ市政のあり方を、地域住民の目線から検討するものです。この施設は、原子力発電所で使った後の核燃料を再処理するまでの間、一時保存する施設であり、日本では今のところむつ市にしかありません（2014 年に貯蔵建屋 1 棟が完成していますが、操業には至っていません。なお、この報告書を書いている 2023 年 8 月現在、山口県の上関町が同施設の建設に向けた調査受入を表明しました。今後の動きを注視していきたいと思います）。

本研究の分析期間は、むつ市にて施設の受入計画が表面化した 2000 年から現在に至るまでの約 20 年間です。研究では、2000 年より一貫して施設の受入に反対してきた市民団体「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」（以後、下北の会）に注目し、同会の代表である野坂庸

子さんや、事務局の栗橋伸夫さん、そして関係者の方々への聞き取りを行なったほか、中間貯蔵に関わるむつ市政のおよそ 20 年分の年表を作成しました。また 3・11 直後の 1 年間における青森県政の動きを分析した論文「3・11 直後の青森県政と原発関連施設の工事等再開をめぐるポリテイクス～県民の「声」の行方～」を発表することが出来ました。

2023 年度においては、同研究の継続申請を行い、助成が決定しました。現政権の原子力政策の動きとともに、新たな知事を迎えた青森県政の動向も合わせてフォローしながら、むつ市による核燃料税導入過程を中心に分析を行う予定です。（『高木基金だより』から転載）



アイ女性会議青森支部のみなさんが「下北・平和の旅」で来訪しました

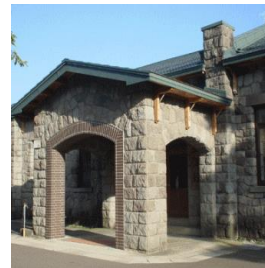
去る 10 月 30 日、アイ女性会議青森支部のメンバーが大型弾薬庫問題や原子力施設を抱える当市の各施設の見学ツアーのため来市し、フォーラム事務局の栗橋が一行を案内しました。

当日は昼過ぎに下北駅前を出発し、大湊海軍時代に作られた「永下隧道」「大湊水源補給施設」「弾薬補給庫」「北洋館」や「樺山飛行場」などを見学しました。

また幻の大間鉄道「二枚橋アーチ橋」「下風呂メモリアルロード」などを見学、主に工事に従事した朝鮮人強制労働の実態などを学び合いました。帰路に使用済み核燃料中間貯蔵施設を経由しながら終了しました。

その後、立憲むつ事務所であらためて下北の戦前から今日までの国家政策に翻弄され続けてきた歴史と中間貯蔵施設について学習会を開催しました。

10 名程度の参加者でしたが、少しは下北の負の遺産などに理解が得られたのではないかと思います。



核の最終処分場にさせない条例を拒否した本県とは大違い！

函館市議会はフクシマ ALPS 処理水の海洋投棄中止を求める意見書を採択しました

ALPS 処理水の海洋散出をただちに中止すると共に処理水削減の抜本的な対策を求める意見書

8 月 22 日に岸田首相は、関係閣僚会議を開き、ALPS 処理水の海洋放出を 8 月 24 日午後 1 時から実施しました。ALPS 処理水は、東京電力福島第一原発事故によって発生し続けている放射能汚染水を、「多核種除去設備」によって処理した水のことであるが、処理後の水にもトリチウムをはじめとした核物質が含まれています。岸田首相は、この ALPS 処理水を今後 30 年にもわたって海洋に放出することを、漁業者らの反対の声を無視して実施しました。

かつて政府と東電は、漁業者らに対して「関係者の理解なしにいかなる処分も行わない」との約束を漁業者と交わしたが、この約束を反故にして、放出時期を「2023 年の春から夏ごろ」と表明、海洋放出に向けた準備工事を進めてきました。岸田首相は 8 月 21 に漁業関係者と面会し、その場でも漁業関係者は「海洋放出に反対であることはいささかも変わらない」と述べたが、「一定の理解を得たと判断した」として海洋放出をおこないました。

政府と東電は、廃炉を進めるために ALPS 処理水の海洋放出は先送りできない「待ったなし」の課題というが、いま優先して取り組むべきは汚染水をこれ以上増やさない地下水流入・汚染水削減の抜本的対策です。ここに着手しなければ、汚染水は増え続けます。このことについては、令和 5 年 8 月中核市議会議長会でも要望しています。

福島第一原発事故から 12 年が経過した今も被害は続いています。いまだ多くの人びとが故郷へ戻れず、被害者への補償も十分に行われていません。

また農林水産業、観光業など生業を取り戻す懸命の努力が続けられているが、復興からはほど遠く、とりわけ漁業の水揚げ量は原発事故前の 2 割にとどまっています。今も続く原発事故被害から目を背け、ALPS 処理水の海洋放出を強行し、地元漁業の復興を阻害することは断じて許されません。

よって政府は、ただちに ALPS 処理水の海洋放出を中止すると共に処理水削減の抜本的な対策を求めます。

以上、地方自治法第 99 条に基づき提出いたします。

令和 5 年 9 月 19 日 函館市議会議長 吉田崇仁

上記「意見書」は、北海道新聞(2023.9.20)によると、意見書案は共産党(3人)が提出し、立憲民主党系の民主・市民ネット(8人)と無所属の3人が賛成。議長を除く自民党系の新市政クラブ(9人)と、公明党(4人)が反対し、14対12で可決とのことです。



“減税”見透かされた首相の腹

人気回復の切り札のはずが…

岸田首相が切り札とも言える「減税」を打ち出したが、さらに支持率が下がるという事態に陥っています。

ネット上では「増税メガネ」から今や「減税ウンメガネ」とも呼ばれ、政府の経済対策に対する国民の期待感はずっと高まっています。その背景には、岸田首相が目先のことにしか考えていないという悲しい現実があります。

減税は岸田首相が「国民への還元」と主張している通り、国民にとっては金銭的にプラスとなる政策のはずだが、世間にはまったく受け入れられていないのが現実です。

その理由には、今回の減税政策が低所得世帯への給付と組み合わせたものであるがゆえにわかりにくく、国民の分断を招いてしまっていること、そして何よりも岸田政権への不信感が払拭できないほど高まっているというのが現実です。

所得減税や給付をめぐる指摘と首相の説明

10月27日の衆院予算委員会

30日の党役員会

減税の実施は来年6月で、足元の物価高に対応できない

燃料油対策は継続する。そもそも所得を引き上げる取り組みを来年につなげていこうという大きな政策を進めている

税収の上ぶれを借金の返済に充てず、減税に回せば財政悪化の一因になる

デフレの脱却こそ、国の財政再建にとって最も重要だ。デフレからの脱却が国の財政にとってもプラスになる

個人への減税と世帯への給付が混在し、手間や不公平感が生じる

不公平感を取り扱う仕組みをつくる。現実的な埋め合わせ手法を決定し、年末までに方針を明らかにした上で実行する

なぜ給付ではなく所得減税なのか

国民全般に現金を広く一律給付する手法は、新型コロナなど自然災害級の国難ともいえるような事態に限るべきだ

岸田文雄首相(自民党総裁)

岸田内閣の総合経済対策の主な取り組み

物価高対策

2.7兆円



- 1人あたり4万円の所得税と住民税の定額減税(減税額は3兆円台半ば)
- 低所得世帯向けの1世帯あたり7万円の現金給付
- ガソリンや電気・ガス料金への補助金延長

持続的賃上げや地方の成長

1.3兆円



- 賃上げ促進税制の強化
- 「年収の壁」への対応を含めた所得向上への取り組み
- オーバーツーリズムの抑制・防止

国内投資の促進

3.4兆円



- 半導体など国内投資の更なる促進
- 「GIGAスクール構想」の推進
- 宇宙戦略基金の創設

人口減少を乗り越える社会変革

1.3兆円



- デジタル田園都市国家構想交付金
- 「物流革新緊急パッケージ」の推進
- 認知症施策

防災・減災など国土強靱化

4.3兆円



- 国土強靱化、災害復旧等
- 性犯罪、性暴力被害者支援の強化
- 花粉症対策

【自民、公明両党の経済対策の提言のポイント】

《所得税減税》

- 公明党は口頭で岸田首相に検討を要請し、自民党は検討を否定しない考えを表明。両党とも提言には明記せず。

《その他》

- 賃上げと投資を促す企業減税を実施。
- 家計支援で低所得世帯に給付。
- 燃油や電気、ガス料金抑制策を延長。

野党各党は、与党の経済対策の提言に所得税減税が盛り込まれなかったことについて「期待した国民への裏切り」「中身はすかすか」と一斉に批判しています。右が各野党の経済対策です。

主要野党の経済対策のポイント

立憲民主党	6割の世帯に3万円のインフレ手当給付、「トリガー条項」の発動
日本維新の会	社会保険料の減免、消費税率を一律8%に引き下げ
国民民主党	所得税・ガソリン税・消費税・法人税を減税、年少扶養控除の復活
共産党	最低賃金を時給1500円に引き上げ、消費税5%への引き下げ
れいわ新選組	消費税廃止、社会保険料減免
社民党	消費税減税、インボイス制度中止



11/1 東奥日報→

10/21 東奥日報↓

全線高台整備 風間浦バイパス

桑畑・下風呂集落など
5カ所にアクセス道

県が概略計画

県は31日、むつ市木野部風間浦村易国間の国道279号バイパス（全長約14キロ）の整備に向けた概略計画を公表した。全線を現道とは別に高台に整備することとし、桑畑集落、焼山崎、下風呂集落、旧下風呂小学校、下北自然の家の5カ所に、バイパスと結びアクセス道路を設けることなどを盛り込んだ。

概略計画によると、バイパスは片側1車線で、設計速度は時速50キロ。切り土・盛り土工事やトンネルを合わせて整備する。

県は本年度中にバイパス整備の工事手法や危険箇所把握など、概略設計を進める方針。県道路課の担当者は「環境面への影響を調査・検討し、早期の完成を目指していく」と話した。

ただ、完成時期については「現時点でめどはたっていない」とした。

富岡宏風間浦村長は31日の取材に「住民への周知や用地取得など県にできる限り協力する。（地元）要望をしっかりと反映しながら計画を進めてほしい」と語った。

バイパスは災害や原子力事故の発生時の避難道にもなるとして整備。地元住民らでつくる懇談会では9月、出席者から県に対して「温泉など環境に影響が出ないよう整備してほしい」などの要望が上がっていた。（川越真也）

東通原発の工事再開
村と議会が東電要望

東通村の畑中稔朗村長と川端一松村議会議長は26日、東京・内幸町の東京電力ホールディングス本社を



訪れ、同社東通原発1号機の工事の早期再開を小早川智明社長に要望した。

要望内容は前年までと同様、工事の早期再開のほか立地地域への影響の緩和など4項目。小早川社長は工事再開時期について「できるだけ早く見通しを示したい」と従来通りの回答を示した。

昨年、工事再開時期の説明について2022年度中に、と求めている畑中村長は取材に「一日も早くというのは当然だが、東電の思いだけで時期を明言できることではないと思う。いろいろな事情の中で、しかるべきタイミングが来るだろう」と述べた。

東通原発は11年1月の着工後の3月に発生した東日本大震災での東電福島第1原発事故の影響で工事が中断している。（本間善幸）

膠着の地質審議進展

大間原発 Jパワーが評価新方針

原子力規制委員会は20日、電源開発（Jパワー）大間原発の稼働に向けた審査会を開いた。敷地内の「S-11」と呼ばれる粘土質の薄い層（シーム）の地質構造について、Jパワーは一体的に評価する新方針を説明。規制委の審査チームは「方向性は一定程度理解できる」とし、膠着していた地質審議に進展が見られた。

S-11は、原発敷地内に分布する粘土層の一つ。一部で地表近くに変位が見られ、地下深くにはないとしている。Jパワーは地表近くと地下深くで別々に評価を進めていたが、S-11の評価方針や定義を見直し、薄い層がない地点も含めて一体で活動性を評価する手法に改めた。

審査チームは「将来活動する可能性のある断層等」に該当するか見極めるために全体で評価するよう指摘していた。20日の会合ではJパワーに対し、段階を踏んで調査や検討を進めるよう求めた。

Jパワーは一部地点は「後期更新世以降（約13万～12万年前以降）の活動を否定できない」とし、指標を定めて、変位がある箇所と同様の地点、または活動がないと認められる地点に分けて敷地全体の分布を調べる。変位がある地点は、層を掘削するなど工学的に対処し、S-11全体で基準に適合していることを示す考え。（加藤景子）

地域防災計画に
中間貯蔵追加へ

むつ市

むつ市防災会議（会長・山本知也市長）は10日、市役所で本年度最初の会合を開き、市地域防災計画の修正の方針を申し合わせた。

「原子力」編では「計画の基礎とするべき災害の想定」に、使用済み核燃料中間貯蔵施設を盛り込むことを確認した。

修正は国や青森県の防災計画との整合を図る狙い。「風水害」編と「地震・津波」編は2019年2月、原子力は13年2月以来となる。

山本市長はあいさつで、頻発する豪雨災害や県の浸水想定見直し、リサイクル燃料貯蔵（RFS）の事業開始時期の表明といった近年の状況を挙げ、「修正内容は多岐にわたる。忌憚のない意見を頂き、よりよい計画としたい」と述べた。

事務局側の方針では、風水害と地震・津波の2編で、避難対策として最新の浸水想定区域等を踏まえた検討を加筆。さらに、3編とも複合災害対策を追加する。

下水道新規整備せず

むつ市計画変更手続きへ

むつ市の公共事業再評価委員会は8日、市の下水道事業について「これ以上の整備を行わず、『計画変更』が適当」と答申した。市はこれを受け、今後、下水道の新規整備を行わない方針を決め、計画区域を変更する手続きを進めていくこととした。

同市の下水道整備率は旧むつ市が18・18%、大畑地区が52・58%（いずれも2022年度末時点）で、川内地区と脇野沢地区はすでに完了している。市は、財政負担が大きいことなどを理由に23年度の新規整備を休止。町内会や商工団体の



山本市長(左)に答申書を渡す足達会長(右)と、むつ市

整備地域を計画区域から外し、合併処理浄化槽を促進することが適当と判断した。また、浄化槽設置や下水道接続のための工事に関する補助制度の拡充・維持を意見として付した。

同日、市役所で同委員会の足達健夫会長（青森公立大学准教授）から答申書を受け取った山本知也市長は「真摯に受け止め、しっかりと対応していく」と述べた。今後、計画区域変更が必要となる市の「都市計画決定」の変更に向けて準備を進めていく。整備済みの下水道は引き続き使用することができ。

(山内はるみ)

知事、財政支援を検討

下北5市町村に「良い話を」

大間―函館航路

宮下宗一郎知事は6日、2024年度以降の大間―函館航路存続のために、県として財政支援する方向で調整する考えを示した。県庁で開いた下北5市町村長らとの意見交換会で、「(県の24年度当初)予算編成の過程の中で皆さんに良い話ができるよう検討、対応したい」と述べた。



大間―函館間を結ぶフェリー「大函丸」

だ指定管理期間が24年3月で終了する。慢性的な赤字が続く、24年度以降の維持に向けて町が運航経費の支援を検討している。6日は下北5市町村などをつくる下北総合開発期成同盟会として、県に対し、恒久的な航路存続に向けた財政支援を要請した。

知事と市町村長との意見交換会は下北5市町村を皮切りに、従来の重点事業説明会を衣替えて12月まで実施する。

(佐々木大輔、川越真也)

24年度完了「厳しく」

東通原発安全工事

東北電青森支店長が認識

東北電力の沼畑秀樹・執行役員青森支店長は9日、青森市内での定例記者会見で、東通原発1号機（東通村）の再稼働に必要な安全対策工事を2024年度に完了させる目標について、「今の検討状況で行くと、厳しくはなっている」との認識を初めて示した。

東通原発は再稼働に向け、原子力規制委員会の安全審査が続く。10月の審査会合で規制委は東北電に、今後の見通しを示す工程表を提示するよう要請。沼畑支店長は会見で社内検討状況に言及した上で、「目標自体は見直さない」とした。同社が24年5月ごろの再稼働を目指す女川原発2号機（宮城県）の審査で得

た知見などを生かし、「審査を効率的に進めることで対応したい」と述べた。安全審査は、津波対策の目安となる「基準津波」の策定に向けた解析結果が出る。次回会合から詰め面の審査は依然として、ほぼ未着手の状態。合格後も工事計画に関する別の審査が控える。

10月24日には畑中稔朗・東通村長が東北電本店（仙台市）で、樋口康二郎社長に早期の再稼働、具体的な工程の再稼働、具体的な

工程の提示を要望。沼畑支店長は「地域の強い期待について、あらためて思いを強くした」と述べた。東通原発は東京電力福島第1原発事故前の11年2月、定期検査のため運転を停止した。東北電は再稼働に向けて14年6月、規制委に安全審査を申請。9年以上にわたって地震動や津波の想定に関する議論が終

わらず、21年4月には5回目となる工程延期を発表していた。

(佐々木大輔)

大間・奥戸で風力発電

岡山建設 11基、32年春開始

岡山建設（本社・六ヶ所村）が、大間町奥戸地区周辺で陸上での風力発電事業を計画していることが7日、同社への取材で分かった。出力は最大4万6200瓩で、4200瓩級の発電機を最大11基設置する。着工は2029年3月ごろ、営業運転開始は32年4月ごろを予定している。

事業名は「(仮称)大間奥戸風力発電事業」で、事業実施区域の面積は約360・5畝。同社は良好な風況を生かし、地球温暖化防止やエネルギー自給率向上、地元人材の雇用を通じて地域社会振興に寄与したいとしている。

7日から12月8日まで大間町役場のほか、隣接地である風間浦村と佐井村の役場で環境影響評価方法書の縦覧を行っている。25・29日には3町村で住民説明会を計5回開く。方法書は同社ホームページでも確認でき、12月25日まで意見を受け付ける。(山内はるみ)

【編集後記】懸案だった「反核燃・秋の共同行動」が終わって一段落だ、いつものことだが何か行事やイベントを計画すると「果たして参加者がどれ位あるか」と人数確保に腐心する。本来のイベントの趣旨云々より、とにかくイベントとして成り立つかどうかだ。効果的な宣伝手段を持たない弱小組織の悲しい定めなのだろうか。情けないが今回も、とにかく参加者が去年より少し多かったことだけでホッとして、何故か闘いに勝利したような錯覚に… (栗橋)

今回はみなさんもよくご存じの下北を扱った作品の紹介です、次号と2回に分けてご案内します

下北を舞台とした文芸作品はたくさんはありませんが、それでもいくつかあります。

その初めは、昭和 32 年～33 年に週刊読売に連載された井上靖の「海峡」です。この作品は登場人物が非常に少ないのです。野鳥観察に夢中になっている病院長と美人妻、その人妻を愛する病院の若い外科医、そして



いさりび公園にある井上靖文学碑

人妻を想う病院長の学生時代からの親友である雑誌の編集長、その編集長に恋する妙齢の部下とさらにその女性を愛する若い同僚だけです。内容は日常的で物語性は少なく退屈な展開です。ただ内面的な心の動きと外面的な行動とのギャップに登場人物が悩まされます。大人の小説です。

最後の場面で、男 3 人が渡り鳥のアカエリヒレアシシギが下風呂付近に集結して冬の海峡を渡る際の泣き声を聞きに行きます。その侘しさと虚しさが登場人物たちの気持を象徴しています。

必ずしも主要舞台が下風呂と言うわけでもありません。井上靖が下風呂温泉の長谷旅館に泊まりこんで書いたものであると言われていたものが、今は「海峡の宿」として当時のままにしてあると聞いています。

「ああ、湯が涉みて来る。本州の北の果ての海っ端で雪の降り積もる旅館の浴槽に沈んで、俺はいま硫黄の匂いを嗅いでいる。」（海峡）

下風呂漁港の隣の「いさりび公園」には立派な石碑が建っています。私

はむしろ、こんな些細なきっかけを取り上げて石碑にまでして村づくりの一助にしようという意気込みの方に感動してしまいます。

次は、昭和 37 年から週刊朝日に連載された「飢餓海峡」です。この作品は洞爺丸海難事故と同じ夜に発生した北海道岩内の大火からヒントを得た作品だと作者の水上勉は後に語っています。

この作品は昭和 39 年には映画化もされています。内田吐夢監督の東映映画です。映画の主人公は、川内町の畑集落出身の杉戸八重で大湊の遊郭の娼婦役が左幸子です。相手役は犬養太吉こと樽見京一郎役の三国連太郎です。昭和 23 年、北海道岩内で質屋一家を殺し大金を強奪し、火をつけ大火になります。同じ夜、たまたま嵐で転覆した青函連絡線の海難事故のどさくさに紛れ、津軽海峡を小船で渡り仏ヶ浦に漂着します。

犬養は八重と大湊の遊郭で一夜を共にして大金を与えます。八重はもらった大金で遊郭の借金を返済し、東京に出ます。犬養を生涯の恩人として感謝します。その犬養を追う函



館の刑事役が、伴淳三郎です。そして 10 年が経過して、舞鶴で事業に成功した犬飼こと本名・樽見京一郎にお礼の挨拶に行き、そこで過去を消したい樽見に殺されます。舞鶴署の刑事役が高倉健というわけです。今では皆故人となってしまいました。

この映画の素晴らしいところは、まず原作の迫力がすごい、読んでいてぐんぐん引き込まれること、それから俳優が優れていることです。昭和

40 年度の日本映画記者会の監督賞を内田吐夢、主演男優賞を三国連太郎、主演女優賞を左幸子、助演男優賞を伴淳三郎と賞を総なめにしています。ロケは川内を根城にして行われました。川内の人の協力も素晴らしかったと聞いています。

撮影当時は森林軌道があり、ロケでは八重が森林軌道客車に乗っておにぎりをほお張り、同乗した犬養にも分け与えるというシーンがあるのですが、シナリオでは「握り飯」とあるところを、川内の地元言葉指導によって「にぎりまま」と言い直したとか。

川内の森林軌道は大正 12 年に開通し、地区営林署の管轄下にありましたが、沿線住民のために木製の客車を牽引して部落ごとに停車していま



した。料金は無料でしたが脱線事故が多く、けが人が多く出ました。それで客車には「事故が起こっても営林署は一切責任を負いません」という木札が張ってありました。

私の父の長兄は、昭和 20 年の秋に大畑森林軌道（大正 15 年 11 月開通）で薬研に紅葉狩り行ったとき、いち早くトロッコから飛び降りたのはいいのですが、マントがひっかかり引きずられて死にました。

＊ 川内営林署の森林軌道は大正 12 年開通、川内から銅山のあった安部城・畑を通り、畑からは湯野川温泉へ北上する軌道と西の野平開拓集落に抜ける軌道があった。昭和 45 年に廃止された。

この文章は寺島豊美氏（青森市在住）の「下北の昔あれこれ」から抜粋しました。次回号に続編を掲載します。